

## 大豆と小麦と塩水が お醤油になるまで

No. 5

お醤油を仕込んで5ヶ月の報告です。

やっと涼しくなってきましたね。白いフヨフヨが消失して、ちょっと張り合いが…。嘘です。ほっとしています。実は急に、お醤油めいた(お醤油を育てているつもりなんです)香りになってきて、こんなに立派になって…という心境です。

やはり、朝夕のお勤めになっていたフヨフヨ対決がなくなってちょっと余裕が出てきて、お醤油を混ぜる手つきも心なしかエレガントになっていたりして。(それはない?)

さてさて。私はよく、犬の散歩で近所の畑を通る度、子どもたちに「あの、葉っぱはな〜んだ」とクイズをします。

「ダイコン!」「ぶぶ〜!かぶらでした」「え!大きなカブになるん?」(何故か、大きなカブのお話が好きらしくて「カブ」でも「カブラ」でもなく「大きなかぶ」なのです)

そんなことをやっていたら、最近になってやっと彼らの頭の中で、土の中の部分(美味しいところ)と葉っぱの部分(苦いから苦手なんだよな〜)のパズルが合ってきたらしくて、正解率が上がってきました。

親として、一安心です。昨今はお刺身の冊が泳いでいると思っている子どもがいる、とか、「土の中で出来たものを食べるの?汚〜い」などと言う子どもがいた、とかいう信じられない話を耳にするものですから。(本当なのかとても興味がありますが)

唐突に「お母さん、あの葉っぱなんやと思う?」と言われて彼の指の先を見てみると。

「里芋だね」

「ぶぶぶ〜」とやけに嬉しそうです。

「???」どう見ても里芋の葉っぱ。京芋とか?なんか品種のこと?ひやひやしていたら「かえるくんの傘、でした」「え?…」

確かに、絵本の中では彼らはあんな傘を差している。が、あれは里辛…。

教えるべきか、と一瞬思ったけどやめました。里芋の葉っぱはかえるの傘で、根っこに出来るお芋が里芋、と言うことで。

「あの葉っぱの根っこには里芋が出来るねんで〜」と言ってみたら、

「かしこい葉っぱやなあ」だそうです。いいのかな、こんなんで。

そういえば、子どもの頃。

サトイモの葉の上の水滴を繋げて首飾りにしたらどんなに素敵だろうと、一生懸命指でつまもうとしていたな。本当にまん丸で、七色でキレイなんですよね。

一枚なら葉っぱをとってもいいよ、っておばあちゃんは言ってくれたっけ。そうそう、おじいちゃんはそういう前に、切って手渡してくれたんだっけ。

それと、「魔法のカゴ」

おばあちゃんが里芋の皮を剥く時には包丁ではなく、竹で編んだ長いカゴ(鰻を取る時の仕掛けのような)を取り出すのです。何をするのかと見ていたら、その中に里芋をゴロゴロ入れて振る!

上下に2、3分程。

カゴをひっくり返すと、真っ白になった里芋がゴロゴロと出てくるのです。

「すごいなあ」と私が言った時に母が「私も欲しいわ」と言ったのを聞いて、なぜか、そのカゴは「魔法のカゴだ」と思い込んでしまったのです。

カゴに皮を削ってもらい、手も痒くならず、そのまま川にさらすと水洗いまで完了する便利グッズだ、と知ってからも蔵の中に眠る長いカゴを見る度に「魔法のカゴだ～まだ健在なんだ～」と、つい思ってしまうんですね。ちょっとふんわり幸せな感じ？

それこそが、おじいちゃんとおばあちゃんと母が私にかけた魔法かもしれませんね。

皆様のお醤油ベビーはお元気にされているでしょうか？

(チャイム 2004 年 12 月号掲載)

